

八 カシミアニットを長く着てほしい

お手入れ

【カシミアニットのお洗濯】

ご自分で手洗いの勧め

カシミアはクリーニング代がかかるから敬遠するとおっしゃる人が案外多いですね。また、カシミアは絶対にクリーニングと思い込んでいる人も多いようです。

軽くてふわふわのカシミアニットは繊細で高価だし、失敗して縮んだりするのが心配だからクリーニングに出すのは解らないでもありません。

直接お会いした人には機会があることにご自分での手洗いをお勧めしています。手洗いと言っても洗濯機の手洗いモードで大丈夫です。

これから説明するように洗ってあげると絶対に縮むことはありません。大事なカシミアニットだからこそ自分で洗ってあげてください。

ポイントは五つ

- ① 水で洗う
- ② 普通のウール洗い洗剤と柔軟剤もしくはご自分のシャンプーとリンス
- ③ 一〜二枚を、短時間の押し洗いや洗濯機の手洗いモードで
- ④ 脱水機で脱水
- ⑤ 元のサイズに整えて平干し

1 水で洗う

『水の温度が高いと縮みやすい、摩擦や洗う時間が長いと縮みやすく毛羽が立つ』と覚えておいてください。

よく『ぬるま湯で』という人がいますが、温度が高くなると縮みが始まりますのでぬるま湯はやめた方が良いでしょう。

本来、カシミア山羊の住む処は、冬は極寒、夏は酷暑の気候条件の厳しい所です。その厳しい気候から自分の身を守るために神様が与えてくれたものです。

自然ではぬるい雨なんか降りません。冷たい雨が降るのです。それに耐えるために生えて

きたうぶ毛ですから。洗濯の温度は室温の水で十分ですし、洗剤さえ溶ければ少々冷たい水でもかまいません。

2 ウール洗いの洗剤・柔軟剤やシャンプー・リンスで一般に販売されているウール洗いの洗剤や柔軟剤で結構です。出来たら香りなどご自分のお気に入りのシャンプー・リンスがお勧めです。

3 摩擦を少なく

カシミアは繊維が繊細いですから摩擦に気をつけてください。他の沢山の洗濯物と一緒に洗うと洗濯物同士の摩擦で毛羽立ちますので、一〜二枚を水の中で泳がせるように、短時間で優しく洗ってください。

短時間の洗いや手洗いモードで洗濯する程度で普通の汚れは取れるはずですが。ニット糸は織物の糸に比べると撚りはあまいし、編地も織物の打ち込みに比べたら比較にならないくらい疎ですので汚れも取れやすいんです。

部分的な目立つ汚れは指でもみ洗いますが、それでも取れない汚れは汚れと言うより染みになっていると思ってください。たんぱく質が変化してシミ化したのは洗濯の範囲を超えていますので、専門家に頼むしかありません。

4 脱水機で脱水

濯いだあとの絞りが大事です。キチンとたたんで脱水機で完全に水気を取ってください。

『脱水機！？』と驚く人が多いんですが、そう、**お勧めは脱水機です！**

勇気を出して脱水機でまわしてください。

脱水中のニットは、遠心力でドラムに張り付いて水気が飛ばされているのでニットのダメージが少ないのです。また、水気を取ってしまうと型崩れしにくいです。

5 形を整えて平ら干し

洗い上りでは縮んではいなくても小さくまとまっているので**元のサイズに**整えてください。床などにバスタオルなどを引いて乾かします。半日ぐらいでひっくり返して位置を変えてください。そうしないとセーターの下はかなり水気がありますよ。

風通しのあるほうが乾きやすいです。もちろん少々陽が当たってもかまいません。半絞りの水気が多い状態で吊るして干すと、水分が下のほうに溜まってその重みで伸びてしまい、乾くとその伸びた状態が定着します。不味い乾かし方の典型です。

絶対に避けて頂きたいのが**熱風乾燥機**です。乾燥機に入れると熱風でフェルト現象を起こして子供服みたいに縮んでしまいます。

これはウールの特有でフェルトの作り方がこの方法ですから縮まないはありますがありません。

ポイント、さえ守ればカシミアニットはごく普通の手洗い（洗濯機の手洗いモード）をすれば何の問題も起きません。

もしこの方法で我がU.T.Oのカシミアニットが縮んだら新しいのをお作りするか代金をお返ししますので、是非ご自分で洗ってあげて下さい。

（絵入り！）

【毛玉の話】 毛玉の科学・なぜ毛玉が出来るんだろう

摩擦と絡まり

毛玉のことを業界ではピリングと言いますが、毛玉とは名前のごとく糸に撚り込まれていない部分の繊維同士が絡まって玉になっている状態です。

毛玉が出来るには主に2つの要因があります。『摩擦』と『絡まる』です。

セーターを着用するということは実際はセーターを摩擦していることです。

毛製品を長時間摩擦していると、撚り込まれている糸から表に出てきた繊維同士が絡まり始めやがて毛玉に成長します。この絡まりの元をピル核と呼んでいます。このピル核の誕生とピルの生成に大きな影響を与える要因がウールの繊維自身の特徴である『スケール』（一般にはキューティクル）です。

カシミアをはじめ獣毛と呼ばれる羊などの天然のウールは（ウールは天然に決まっていますが）繊維にキューティクルがあり開いたり閉じたりして水分の調整をしてくれているのです。

キューティクルの主な働きは、乾燥しているときは水分を逃がさないように閉じて、水分が多いと開いて水分を取り込みます。ウールの特徴である、冬は暖かく夏は涼しい特性があるのです。

異物と静電気

ピル核誕生の元は主に『異物』と『静電気』です。異物と言っても目で見て目立つようなものだけではなく上着など他の繊維の切れたものや空気中に浮遊しているような埃のようなものが付着することでもピル核誕生の原因になります。また冬場に発生する静電気も繊維同士をくっつけますのでそれが元で絡まり始める場合もあります。

あまり知られていないのが『湿気』と『熱』です。この湿気と熱が実は大きなポイントなんです。擦って起毛した繊維の絡まる速度が、常温で普通に摩擦した場合に足し算のように毛玉が成長するのに比べ、湿気や水を与えると掛け算のように急激に毛玉が成長します。そ

こに熱、特に体温以上の熱が加わるとさらに毛玉の成長速度が速まるといふ現象が起きるんです。

【どうしたら毛玉（ピリング）が出来にくいのか】

摩擦・連続着用に気をつけて

着用することはセーターにとっては摩擦することですから摩擦をなくすことは出来ませんが、なんといっても摩擦の度合いです。で激しい作業での着用や 何日もの連続着用は禁物です。1日着たら2日ぐらいは休ませてください。特に男性は同じものを何日も続けて着る方もいらっしゃいます。要注意です。

上着で着用しているときは腕の動きなどの摩擦が主ですが、車などのウール張りのシートで背中が擦れて毛玉になったというケースもあります。案外気がつかないのがセーターに重ね着したときの上着です。裏地の無いツイードなどの上着などは厳禁です。他にも帆布製品などのカバンで擦れてカバンのあたった部分だけが毛玉になることもあります。

着用後のブラッシング

毛玉が出来る元は繊維が自らからまるケースや異物や静電気で繊維同士がくっついて絡まり始めることがあります。異物と言っても目に見えるようなゴミというより繊維の切れ端などのような微小なものです。これらの毛玉の元を解消させるにはこまめなブラッシングが一番です。着用して仕舞う前にちよつとブラッシングするだけでずいぶん違います。

湿気と温度に要注意

ウインドブレーカーを着てゴルフして脇の下などが毛玉になったり、ジャンパー等の内側に着ていて車を運転してシートベルトで押さえた部分が4〜5時間で毛玉になってしまった例もあります。これはジャンパーで蒸れてシートベルトで圧迫され擦れた典型的な例です。

【毛玉が出来たら】

出来てしまった毛玉はこまめに取る

毛玉が出来たら引っ張らないで鉄みなどで切り取るのがベターです、気をつけないとセ

ーターの本体まで切ってしまう恐れがあります（私も切って失敗したことがあります）。この頃は髭剃りみたいな手軽な毛玉取り機が発売されています。結構きれいに取れます。毛玉を取ったらセーターが薄くなるのではとおっしゃる方もいらつしやいますが毛玉を取る程度はセーターにとつては全く問題ありません。

出来たら簡単な毛玉取り機を常備しておいて欲しいです。

長年カシミヤのセーターを着用して来ての私の経験ですが、カシミヤは繊細ですがそんなに軟ではありませんので過度に神経質にはなることはないと思います。又、購入して初めの頃は毛玉が出来やすいけど、毛玉が出る度に取り除いているとそのうちに殆ど出来なくなってしまうことがよくあります。

【防虫の話】

疑わしき犯人は我と甲虫の幼虫

毎年、製品に穴が開いたというお直しの依頼がありますが、その半数近くが虫食いです。セーターがやられたということは一緒に入っていたウールのコートやスーツなどもやられている可能性は高いです。そんなときに限ってとつても気に入ってたセーターや思い出深いコートだったりするんですね。

被害者の殆どが『虫に食べられるなんて思いも寄らなかつた』という無防備な話が多いんですが、大事なカシミヤに是非『思いを寄せて』頂いて、衣類を食い荒らす虫のことや予防の方法をお知ってください。

衣類に穴を開けるのは蛾の幼虫のイガ（衣我）とコイガ（小衣我）。カナブンの仲間のヒメカツオブシムシとヒメマルカツオブシムシ。

夏の夜の電灯に沢山の我がが集まってくるけどあの中にはほとんどイガはいないそうです。イガは自然の中にはあまりいないのでカーペットや布などに卵や幼虫の状態で入り込むらしいんです。自然界とは関係ないところに住んでいて気候などにあまり影響されないので物流の進歩に伴って大航海時代に世界中に広まったと思われれます。

要注意…ヒメマル



衣類の食害の中で、犯人の多くはヒメマルカツオブシムシらしいです。私はヒメマルと呼んでいます。

ヒメマルカツオブシムシ(姫丸鯉節虫)。成虫はいわゆるカナブン(鞘翅目 しょうしもく)の一種。カナブンといっても一般にいうコガネムシのような大きさではなくテントウムシをもっと小さくしたような体長2〜3ミリの小さな甲虫です。

ヒメマルの幼虫は5ミリぐらい、全身を毛で覆ういわゆる毛虫、幼虫で越冬します。衣類はもちろん名前のごとく鯉節などの乾物から昆虫の標本や剥製までも食べてしまう雑食。イガに比べて食べる速度は遅いのですが、こいつが自然界で何をえさにしてどのようなライフサイクルを送っているのかはきちんとは説明されていないそうです。

春、マーガレットなどの白い花に沢山のヒメマルの成虫が群がっているのを見かけることがあります。私も実際に何回も見ることがあります。家庭の庭の花に来ているときもあります。成虫は花の花粉などを食べているんです。衣類や乾物を食べるのは幼虫の頃で、成虫は衣類に穴を空けたりはしません。

気持ちのよい春風、でも窓はきちんと閉めましょう

ヒメマルは日本の自然界に普通にいますので要注意です。成虫が発生する春の頃は花が咲いている周りを散策したときなど服にとまっていることもあるので家に入るときは気をつけてください。

また、外に干した洗濯物や布団に成虫がとまっていることがあるそうです。昆虫の目は白や黄色などを見分ける機能があるので白い花などによく飛来するんですが、白い洗濯物などは狙われやすく特に注意が必要です。取り込むときには気をつけて、目でチェックしたり掃ったほうがいいと思います。春の薫風は気持ちのいいものですがヒメマルも盛んに飛び回っているので窓は開けても網戸はきちんと閉めたほうがいいと思います。

未だ詳しい生態は説明されていないヒメマル

卵は20個から100個も産みつけられ1週間から10日間で幼虫に孵るそうです。

この季節は、面倒ですがヒメマルに気をつけるしかなさそうです。

紡績会社の方からこれ、『原毛の食害は地面に近い下にあるほど被害があるようです。2階に上げた原毛は全然被害が無いんですよ』という話を聞いたことがあります。

空中から飛んでくるヒメマルもいるけど地上を這って扉の隙間などから進入する奴も多いのかも知れませんね。そんな奴の為に床や床の隅などに糸くずがたまらないように掃除したり、毛製品は床などに直に置かずに必ず台の上に置くように心がけることが大事だと思います。

虫にとつても、美味しいのとまずいのがあふらしい

虫の進入に気をつけることは大事ですがやはり防虫の備えをすることのほうが断然効果があります。と言うより必ず防虫はしてください。

普段、UFOではショールームの棚にあるセーターの上にも所々に防虫剤を置いています。ウール系の素材はカシミアを初め、羊、アンゴラ、キヤメル、アルパカ、モヘヤなど色々ありますが、どういう訳か柔らかくて高価な奴が先に食べられているような気がしてなりません。高価なカシミアは一番初めに食べられているようですので、防虫剤はかならず入れてください。

有臭系と無臭系の防虫剤がありますが専門家ではない私としては効果のほどはあまり解りませんが、臭いの無い方が使い勝手がいいので、無臭系を使っています。

防虫効果は上から下へ

防虫剤は基本的には空気より重いので衣類の一番上に置いたほうが効果が高いそうです。イガの卵などはスチームを当てると孵化しないそうです。ニットを製造するときには工程の中で何回かスチームを当てるのでそれだけでもかなりの効果はあると思います。チャンスがあれば家でもスチームをあてるのもいいと思います。(あてる程度にしてください、抑えると毛が寝てしまって折角のふんわり感がなくなります)

蛇足ですが、ナフタリンのにおいはドライヤーを当てると臭いが早く取れるそうです。お葬式に行ったらそこかしこからナフタリンのにおいがして、みんな仕舞ってあった喪服を急いで引っ張り出してきたんだなあと変なところで共感した思いがありますが、きつとド

ライヤーのことは知らなかったんですね。皆さんは急なときにやってみてください。

要注意…異なる防虫剤は絶対に一緒に使わない

防虫剤は異なる防虫剤を一緒に入れないということですが。組み合わせによっては害があるそうです。例えば、ナフタリンと樟脳は一緒にするとしみになることもあるそうです。なぜナフタリンが入っているところに重ねて樟脳を入れる人がいるのかというほうが不思議なんですが。説明書をよく読んでください。

ちなみに、ニットメーカーであるUTOの東京のオフィスでは製品だけなので無臭タイプ一本やり。工場では糸などは有臭タイプ、製品は無臭タイプを使っています。

【ニットのお直し】

高橋君へのインタビュー？記事？

＋ニットの編地はループのつながりですから一箇所でも目落ちしたりほつれたりするとそこから傷がどんどん広がってしまいます。それ以上傷を広げない為にも出来るだけ早く対応することが大事です。でも、セーターのお直しは素人では難しく、プロでもとっても時間がかかります。傷の具合によっては新しく編みなおしたほうがずっと簡単ということもあります。でもカシミヤは原料の糸が高価なのでそんなに簡単に編みなおすことも出来ないのが辛いところです。

また、傷の大きさに対する認識も違う時があります。小さい傷は作る方としてはひと目かふた目ぐらいのことですが、電話では小さい傷と話をされていたのに届いたセーターを見ると親指ぐらいの傷だったりします。これぐらいになると我々は大きな傷で、傷が目立たないように治すのは難しい部類です（もちろんお直しをしますが料金が高くなります）。

また小さくても虫食い等の場合で何箇所も空いていることがよくあります。3箇所空いているからといわれて詳しく見ると5箇所も6箇所も食べられているときがあります。

傷の場所や編地によってお直しの難度は大きく変わります、天竺のところは比較のお直ししやすいですが、リブや寄せ柄などはとっても難しく、残念ながら判らないようにお直しすることが不可能でこれ以上傷が広がらないようにする程度のケースもあります。いづれ

もお客様に確認の上で進めさせて頂いています。

殆どのお直しは、「どこに傷があったのかわからない」とおおむね好評をいただいています、

お直しの原則は編んだ職人さんをお願いすることにはしていますが、手が回らない時は外部のお直し屋さんにお問い合わせして紹介しています。

【アップサイクルカシミヤ】

捨てられないカシミヤをよみがえらせる

軽くて暖かいお気に入りのカシミヤニット。決してお安くはないし、買うときには結構勇気を出して買っただけに大事に大事に着用しますね。正直他の素材のニットとは扱いが違います。

そんなカシミヤですがお気に入りのニットほど着用の頻度が多くなり、染みや虫食いや経年劣化での色褪せなどの着古した感で殆ど着る機会がなくなったカシミヤだけどなかなか捨てる気になれないですね。

という私も、自分の会社で作ったという愛着もあるし、長い間着れば着るほど自分に馴染んできて体の一部みたいに馴染んでいるので手離せず、自宅では肘に穴の開いたカーデガンを愛用しています。もったいないより捨てる気になりません（笑）。

古くなったUTOのカシミヤをもう一度甦らせられないだろうかと長年考えていました。世界でトップのカシミヤ原料にこだわって作って来た製品だからこそなんとか甦らせたい。リサイクルカシミヤの希望や夢をお話ししたり計画するのは簡単で楽しいのですが、いざ実行に移すとなると大変なことだと気づきます。

まず、最低200枚ぐらいのセーターを集めなければなりません。下手をすれば新品より高くなる可能性もあるし、どこかのメディアとコラボするとか・・・。色々考えあぐねているそんな折、UTOのカシミヤ製品をご愛用して頂いているお客様から「使い古してもう着ないUTOのカシミヤがあるけど断捨離する気にならないからリサイクルできないか？」という連絡を頂きました。

一番難しいのがセーターを集めることです。捨てられないというお客様が他にもいらっしゃるだろう、時間がかかってもいいから実行しようと決めました。

カシミアをリサイクルする方法は、製品をワタに戻す(反毛)ことから始まります。UT Oのカシミア製品でしたら最高級の原料と解っています。それでもワタに戻すと繊維が切断されて短くなるので繊維の長いカシミア100%のバージンのワタを足して繊維長を確保して紡績します。

バージンのワタを足して紡績してもいつもUT Oの使っていた平均繊維長までは甦らないので通常より太い糸になり、いつもの12ゲージではなく厚めの7ゲージのセーターになるはずです。

提供して下さった皆さんの色々な色が混じった他にない魅力的なニットが出来ると思います。その甦ったリサイクルセーターを皆様に販売するつもりです。カシミア製品を寄付してくださいました方にはお礼の意味も込めて30%オフの特別価格で販売することも予定しています。

着なくなったUT Oカシミアニットが有りましたら是非ご協力ください。

大変心苦しいのですが、カシミア100%でもUT Oの製品に限らせて頂きます。

夢のような企画ですが、「なんとか成功させて甦ったカシミアと一緒に着られたらいいなあ!」と思っています。